

第2章 合同防災キャンプ 2016 実施内容



事前研修の開催

開講式

■開催日：平成 28 年 7 月 17 日（日）

■場所：東京都教職員研修センター
（東京都文京区）

■プログラム

9:30～

受付開始・開場

10:00～

①開講式

東京都教育委員会挨拶 東京都教育庁 教育監 伊東 哲
教員代表挨拶 都立新宿山吹高等学校 副校長 藤田 豊先生
生徒代表決意表明 都立山崎高等学校 第3学年 川島 真治さん

10:10～

②オリエンテーション

合同防災キャンプ 2016 実行委員会事務局 挨拶 東京都教育庁 指導部 指導企画課長 冠木 健
合同防災キャンプ 2016 実行委員会事務局 説明 東京都教育庁 指導部 指導企画課 課長代理 会田 健太郎
宿泊研修案内 株式会社 JTB コーポレートセールス
防災士資格取得説明 株式会社 防災士研修センター

11:10～

③防災士養成講座（各講座 60 分）

[1] 「近年の自然災害に学ぶ」 防災情報機構 特定非営利活動法人 会長、元 NHK 解説委員 伊藤 和明氏
[2] 「避難と避難行動～東日本大震災、その時学校は～」 旧宮城県石巻市立門脇小学校 校長 鈴木 洋子先生
[3] 「防災士の役割」 株式会社 防災士研修センター 代表取締役、特定非営利活動法人 日本防災士機構 理事 甘中 繁雄氏

15:25～

④グループ協議

自己紹介、グループ分け、学びたいこと等の話し合い
（進行／東京都教育庁 指導部 指導企画課 統括指導主事 大津 嘉則）

15:40～

⑤事務連絡（質疑含む）

（進行／東京都教育庁 指導部 高等学校教育指導課 統括指導主事 久保田 聡）

16:00

終了



開講式で配布された主な資料



事前研修の開催

生徒代表決意表明及び教員代表挨拶



生徒代表 都立山崎高等学校
第3学年 川島 真治さん

現在、日本各地で自然災害が相次いで起こっています。自分の身近なところで災害が起こったとき、どのような行動をとればよいのか、そして私には何ができるのかと、考えることも多くなりました。

5年前、東日本大震災が起きてから、テレビ番組で被災地の様子が何度も放映されています。最近では熊本地震の様子が流れています。それらを見るたびに、被災地の本当の苦しみは何なのだろうか、実際の現場は、今どのような状況なのだろうか、そして私たちにできること、私たちのすべきことは何だろうか、いつも考えていました。そして、被災地の中学生や高校生が、自分自身が被災しているにもかかわらず、避難所の人たちや高齢者のお手伝いをしている様子が多くなりました。

私は、小学校6年生のときに、東日本大震災を体験しました。このとき東京は、震度5程度の揺れでしたが、とても恐怖を感じ、揺れたときは何もできず、先生方の言われるままに避難したことを覚えています。

あれから5年、私は高校生となりました。私はもう、周りの大人を頼って逃げるだけでなく、周りのお年寄りや小さな子供たちを支える立場なんだと強く思えるようになりました。

今年4月の避難訓練で副校長先生から、この「合同防災キャンプ2016」の募集について、お話がありました。私は自分の思いを実行に移すためには今しかない、すぐに申し込みました。今回、80名の都立高校生が、宮城県の被災地支援に参加し、現地の人々の生活や高校生の現状を知ることとなります。どのような状況であるのか、今はまだ想像しかできません。ですが、このような機会を頂けたことに感謝しながら、多くのことを学び、被災地の復興支援にできる限りの貢献をしたいと考えています。また、今回の合同防災キャンプで、防災士養成講座を受講し、防災士の資格取得を目指します。今後、私たちの住む地域で災害が起きたとき、防災のリーダーとして、地域の方々や高齢者を多く助けることができるよう、資格取得に向けて励みたいと思います。

私たちは、この合同防災キャンプを通して体験したこと・学んだこと・感じたことを学校の仲間をはじめ、多くの人に伝えていきます。防災リーダーとして、東日本大震災を風化させず、災害に対する意識や心構えを多くの人々と共有できるよう、行動したいと思います。



教員代表 都立新宿山吹高等学校
副校長 藤田 豊先生

兵庫県のある高校生が、大きな地震で被害に遭った地域へ、ボランティア活動をするために訪れました。訪問先の災害ボランティアセンターから依頼されたのは、ニーズ調査でした。被害に遭われた家を一軒一軒回り、困っていることがないか、聞いて回る活動でした。被害に遭われた方が必要とする活動と、ボランティア活動をつなぐ、非常に大切な役割です。

ある家で、高校生のグループが「何か困ったことはありませんか」と聞きました。すると、その家の方はこう言いました。「困ったことばかりだ。屋根は傾き、壁は落ちている。君たちに何ができるというんだ」。そう返された女子生徒はじっと考えてある言葉を言いました。

さて、なんと答えたでしょうか。

この生徒は「私たちには何もできません。でもあなたの話を一生懸命聞くことができます」。

先週の土曜日と日曜日、熊本県益城町に行き、ボランティア活動をしてきました。そのときには、長崎県のある商業高校のバレーボール部の生徒が活動に来ていました。その姿を見て、正にこのやり取りが頭に浮かびました。

私たちは被害に遭われた地域で毎日暮らしているわけではありません。ですから、つらい思いをされた方々の“本当の気持ち”を分かることはできないのかもしれないと思います。だからこそ今回の訪問では、現地で暮らす方々の話を傾け、現地の空気を全身で感じていきたいと思っています。

そこから、災害発生時、一人一人が減災の在り方を考え、平常時からどのような指示をし、行動していけばいいのか、社会と関わっていけばいいのかを考えていきたいと思っています。

この合同防災キャンプは様々な学校から生徒・教員合わせて102名が参加します。何らかの形で課題意識を持つ人が集まっています。時間を共有する中で、一つの課題に様々な考えがあることを知り、語り合い、その中から、課題を意識して考えていきたいと思っています。

事前研修の開催

防災士養成講座（講義）

事前研修では、講義形式で三つの講座を行いました。自然災害や防災に関して学び、宿泊研修で訪問する市町村における、東日本大震災の被災状況等について事前に学習し、交流活動等の準備、あるいは宿泊研修中に災害が発生した際の対応についても事前に検討しました。

[1] 「近年の自然災害に学ぶ」

講師／防災情報機構 特定非営利活動法人 会長、元 NHK 解説委員 伊藤 和明氏



伊藤 和明氏は、東京大学理学部を卒業後、NHKに入局。以後、科学番組のディレクターを経て、23年間に渡り解説委員として活躍。また32年間、「夏休み子供科学電話相談」を担当し、テレビ番組の解説委員も務めた。

防災士養成講座 [1] では、「近年の自然災害に学ぶ」について、聴講しました。

地震や津波のメカニズム等について、科学的視点を交えて、近年の災害事例について説明を頂きました。

「プレートと地震活動」「プレートと地震の震源分析」等から、まず基本的な地震発生のメカニズムを学ぶとともに、意外と知らない「震度とマグニチュード」の意味についても学びました。



東日本大震災発生後、被災地調査の際に撮影した各地の津波被害の様子を中心とした写真を紹介。校舎2階の天井まで津波浸水した中浜小学校（宮城県山元町）では、生徒や近隣の方々90人が、屋上や屋根裏部屋で夜を明かしたこと等、学校という身近な場所でどのように避難者が過ごしたかを、写真とともに説明して頂きました。

また同様に、熊本地震についても解説頂き、断層がずれている様子がはっきり分かる様子を写真で紹介。“沈みこむプレート内の地震”の実態を、熊本の被災地から学びました。

最後に、マグニチュード7クラスの首都直下地震が30年以内に発生する確率も明らかにし、参加者の防災意識を喚起しました。



[2] 「避難と避難行動～東日本大震災、その時学校は～」

講師／旧宮城県石巻市立門脇小学校 校長 鈴木 洋子先生



鈴木 洋子先生は、退職を目前にした平成 23 年 3 月、石巻市立門脇小学校の校長として東日本大震災に遭遇。現在は、その時の経験から得られた教訓を伝えるため講演や現地案内等の震災伝承活動に尽力する。



防災士養成講座 [2] では、「避難と避難行動～東日本大震災、その時学校は～」について、聴講しました。

はじめに、「石巻市立門脇小学校記録映画／3月11日を生きて～石巻・門脇小・人びと・ことば～（『宮城からの報告』製作委員会）等の映像を紹介。校庭への第一次避難、日和山公園への第二次避難等の様子も併せて説明していただきました（8月の宿泊研修時は、旧門脇小学校や日和山公園等を実際に訪れました。）。

東日本大震災の石巻地区の人的被害や物的被害についての説明、震災後、取り組んできたこと（「子どもの命を守る」防災教育、日常生活指導、授業づくり）を説明いただきました。

また、震災による避難所生活における児童たちの活躍※とともに、被災後に何を行うかといった“提言”も伺いました。当時の門脇小学校の児童たちと同世代ということもあり、参加者の興味関心も高く、また感慨も深いようでした。

※校舎・トイレ等避難所の清掃／養護教諭・救護所の手伝い／支援物資の仕分け・配給／幼稚園児・小学生低学年の世話等

なお、鈴木先生の講義中、茨城県南部を震源地とする最大震度 4 の地震が発生し（東京は震度 3）、改めて常日頃から防災意識を持つことの重要性を、全員が身を持って知ることができました。



[3] 「防災士の役割」

講師／株式会社 防災士研修センター 代表取締役、特定非営利活動法人 日本防災士機構 理事 甘中 繁雄氏



甘中 繁雄氏は、21年前に兵庫県西宮市のご自宅で阪神・淡路大震災で被災したことをきっかけに、防災士制度の創設に参加

防災士養成講座 [3] では、「防災士の役割」について、聴講しました。

甘中氏は、防災士制度に平成15年の創設から関わり、数々の災害現場での調査活動やボランティア活動を基に、防災士研修講座の企画立案や防災士の指導に当たり、現在まで、制度を盛り上げてきました。

講義では、最新の熊本地震の様子を写真で紹介。土砂災害、台風等、自然災害全体について現況を解説。災害発生時における重要なポイントについても、東日本大震災を例に説明頂きました。

また、防災士制度の黎明期から関わる甘中氏ならではのお話として、防災士の重要性、防災士の心得（“救助する人を目指す”等）と、日頃から何を心掛けておくべきかを講義頂きました。



事前研修の開催

オリエンテーション

事前研修では、あらかじめ分けられた班内で、それぞれ自己紹介を行いました。また、8月に開催される宿泊研修で行われる交流活動（現地高校生とのグループワーク、震災経験者の体験談を伺う。）について、どのコースを選ぶか、班ごとに意見をまとめる協議も行いました。

合同防災キャンプでは、他校の生徒・教員との班編成となります。初対面であっても短時間でコミュニケーションを深め、協力体制を築き、各自の役割を認識し合うことが重要です。防災士として、防災リーダーとして、様々な年代、様々な考え方を持つ人、様々な環境に置かれた人たちをひっぱりこむ素養を育むことが、こうした作業においても鍛えられます。

